

## 介護職員初任者研修とは

介護職員初任者研修（旧ヘルパー 2 級）は、介護職として働くための基礎的な知識と技術を学ぶための研修です。この研修を修了することで、介護施設や訪問介護などで働くことができますようになります。

## 研修の目的

この研修の主な目的は、介護の現場で必要とされる基本的な知識と技術を習得し、介護職としてのスタートラインに立つことです。具体的には、以下のような内容を学びます。

- 介護の基本的な考え方
- 高齢者や障がい者の心理と行動の理解
- 介護技術（食事、入浴、排泄などの介助）
- コミュニケーション技術
- 介護保険制度の理解

## 研修の内容

介護職員初任者研修は、合計 130 時間のカリキュラムで構成されています。以下はその主な内容です。

- 職務の理解
- 介護における尊厳の保持・自立支援
- 介護の基本
- 介護・福祉サービスの理解と医療の連携
- 介護におけるコミュニケーション技術
- 老化の理解
- 認知症の理解
- 障がいの理解
- こころとからだのしくみと生活支援技術
- 振り返り



研修は、座学と実技の両方で構成されています。座学では、介護に関する理論や制度について学び、実技では実際の介護技術を身につけます。例えば、車いすの操作方法やベッドからの移動介助などを実際に体験しながら学びます

## 受講のメリット

就職・転職に有利：介護業界では初任者研修の修了が求められることが多く、就職や転職の際に有利です。  
スキルアップ：基礎的な介護技術を習得することで、現場での即戦力となることができます。  
自己成長：介護の知識と技術を学ぶことで、自分自身の成長にもつながります。

## まとめ

介護職員初任者研修は、介護職としての第一歩を踏み出すための重要な研修です。基礎的な知識と技術を習得し、介護の現場で活躍するための準備を整えることができます。